

地震・火山科学と総合防災学の両共同研究拠点主催シンポジウム

南海トラフ巨大地震の災害リスク評価

ー社会の影響から地震発生まで振り返り，評価の不確実性と影響について考えるー

日時： 平成 26 年 10 月 6 日 12：45～18:30

場所： 東京大学地震研究所第 1 会議室 （地震研究所 2 号館 5 階）

12：45－12：55 開会挨拶 東京大学地震研究所・所長 小屋口剛博

12：55－13：00 趣旨説明 飯高隆 （東京大学地震研究所）

1. 災害情報の外部発信

13：00－13：15 「リスクの想定」と「想定リスク」 矢守克也（京都大学防災研究所）

13：15－13：30 地震「想定」を考える 関谷直也 （東京大学情報学環）

13：30－13：45 地域の生き残りを考えるために必要な災害情報 牧 紀男
（京都大学防災研究所）

2. 災害のリスク評価と意思決定

13：45－14：05 建物被害評価における予測の不確実性について
佐伯琢磨（防災科学技術研究所）

14：05－14：25 地震リスク評価に関する不確実性
～どの部分の不確実性が効いているか～
西嶋一欽（京都大学防災研究所）

3. 構造物の被害予測モデル

14：25－14：45 マルチハザードを受けるインフラ構造物の脆弱性評価
ーライフサイクルの視点の重要性ー 秋山充良（早稲田大学）

14：45－15：05 地震被害予測のための建物群の構築と地震動強さ指標
境有紀（筑波大学）

15：05－15：20 休憩

4. 津波の被害予測の不確実性

15：20－15：40 津波発生の多様性と津波予測の不確実性 谷岡勇市郎（北海道大学）

15：40－15：45 コメント 「沿岸部の津波被害およびリスク評価」 森信人
（京都大学防災研究所）

5. 地盤構造と震動の関係の複雑さ

15:45-16:05 科学的防災・減災への工学の役割

ー垣根を取り払った工学へ，地盤工学の視点からー 飯塚 敦

(神戸大学都市安全研究センター)

16:05-16:25 都市の斜面災害ー斜面地震学の可能性ー

釜井俊孝

(京都大学防災研究所)

6. 今後の強震動予測がめざすもの

16:25-16:45 地震動予測地図の難しさ

額部一起 (東京大学地震研究所)

7. 地下構造・波動伝播の複雑さ

16:45-17:05 強震動シミュレーションの現状と課題

ー巨大地震のハザード評価の精度向上に向けてー 古村孝志

(東大情報学環総合防災情報研究センター/

地震研究所巨大地震津波災害予測研究センター)

17:05-17:25 地下構造研究の現状と課題

ー南海トラフ巨大地震の予測高度化をめざしてー

澁谷拓郎 (京都大学防災研究所)

8. 南海トラフ地震の地震像

17:25-17:45 南海トラフ地震の長期評価と地殻変動の現況

西村卓也 (京都大学防災研究所)

17:45-18:05 地震発生サイクルシミュレーションを用いた

南海トラフ巨大地震のシナリオ検討 堀高峰 (海洋研究開発機構)

9. コンピューター・サイエンスが拓く地震リスク評価の将来

18:05-18:25 先端研究としての統合シミュレーション

ー地震工学と計算科学の境界ー

堀宗朗 (東京大学地震研究所)

18:25-18:30 閉会の辞 東大地震研・京大防災研 拠点間連携共同研究委員会

委員長 川瀬博 (京都大学防災研究所)